

5 研究のまとめ

(1) 平成 27 年度佐賀県小・中学校学習状況調査[12月調査]の結果より

解答類型を基にした解答の分析

平成 27 年度佐賀県小・中学校学習状況調査[4月調査]での課題解決に向けた授業改善策が有効だったのかを見るために、平成 27 年度学習状況調査[12月調査]の結果を、作成した解答類型を基に解答を分析し、誤答傾向の変容を考察します。

ア 第 4 学年における実践について

- 実践校における課題の焦点化

「中心となる語や段落相互の関係を捉えること」

- 課題の解決に向けて必要な力

「説明的な文章の解釈に関して、段落相互の関係を捉えながら読む力」

※ 以下に解答類型と、解答類型を基にした児童の解答の分析を掲載しています。調査問題は、平成 27 年度佐賀県小・中学校学習状況調査[12月調査]です。調査問題については、著作権の関係上掲載することができませんが、佐賀県内の教職員の方につきましては、SEI-Net の諸調査集計・分析システムから閲覧することができます。

① 課題に関する設問の解答類型

小学校 4 年生 説明的な文章の問題 (平成 27 年度佐賀県小・中学校学習状況調査[12月調査])

大問 4 -

○設問の趣旨

段落相互の関係を捉えて読む

○学習指導要領における内容

〔第 3 学年及び第 4 学年〕

「読むこと」イ 目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと。

○評価の観点

読むこと

○解答類型

問題番号	解答類型	正答	反応率(%)
4	1 イと解答している	◎	83.9
	2 アと解答している		6.5
	3 ウと解答している		3.2
	4 エと解答している		3.2
	0 無解答		3.2

○考察

段落相互の関係を捉えて読むことができるかどうかを見る問題です。正答率は 83.9%と「十分達成」の基準を 3.9 ポイント上回っています。段落相互の関係を、問い、例、理由などの言葉を使って説明していますが、最も多い誤答は、例と問いの間違いです。学習で使った言葉と文章中の語や文が、つながらなかったのではないかと考えられます。

大問 4 - 三 - あ

○設問の趣旨
 中心となる語や文に注目して要点をまとめる

○学習指導要領における内容
 [第 3 学年及び第 4 学年]
 「読むこと」イ 目的に応じて、中心となる語や文を捉えて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと。
 エ 目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること。

○評価の観点
 読むこと

○解答類型

問題番号	解答類型	正答	反応率(%)
4 三-あ	1 (しっかりと) 押さえこむと解答している	◎	71.0
	2 えものをとらえる、とらえる等と解答している		9.7
	3 食べる等と解答している		3.2
	4 その他(走る、身を守る他)		12.9
	0 無解答		3.2

大問 4 - 三 - い

○設問の趣旨
 中心となる語や文に注目して要点をまとめる

○学習指導要領における内容
 [第 3 学年及び第 4 学年]
 「読むこと」イ 目的に応じて、中心となる語や文を捉えて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと。
 エ 目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること。

○評価の観点
 読むこと

○解答類型

問題番号	解答類型	正答	反応率(%)
4 三-い	1 (するどい) かぎづめと解答している	◎	87.1
	2 大きくて硬いひづめ、ひづめと解答している		6.5
	3 つめと解答している		3.2
	4 その他(ライオン、えもの、ほね他)		0.0
	0 無解答		3.2

○考察

中心となる語や文に注目して要点をまとめることができるかどうかを見る問題です。「三-あ」は、「おおむね達成」の基準を 11.0 ポイント上回り、「三-い」は、「十分達成」の基準を 7.1 ポイント上回っています。ライオンの足のはたらきを正しく読み、キーワードとなる「かぎづめ」と「おさえこむ」を捉えることができています。誤答を見ると、問題の中で、モデルのクイズとなっているきりんのクイズの内容を答えている誤答が多く、問題文の意図を捉えられなかったのではないかと考えられます。

② 解答を分析し、誤答傾向を考察した結果から

平成 27 年度佐賀県小・中学校学習状況調査 [4 月調査] で課題となっていた「中心となる語や段落相互の関係を捉えること」については、正答率は「おおむね達成」の基準に到達していることや、無解答率が減っていることから課題の解決に向かっているということが出来ます。

しかし、問い、例、理由などの言葉を用いて文章にまとめたり、中心となる語や文を用いて、要点をまとめたりすることには課題が見られます。引き続き授業改善が必要であるといえます。

イ 第 5 学年における実践について

○実践校における課題の焦点化

「求められた条件に合わせて書くこと」
 「文章を読んで自分の考えを書くことや感想を述べること」

○課題の解決に向けて必要な力

「求められた様式に合わせて書く力」
 「文章を読んで自分の考えを書く力」

① 課題に関係する設問の解答類型

小学校 5 年生 学文的な文章の問題 (平成 27 年度佐賀県小・中学校学習状況調査[12月調査])

大問 3 ー 二

○設問の趣旨

優れた叙述に着目して、自分の考えをまとめる

○学習指導要領における領域及び指導事項

〔第5学年及び第6学年〕

「読むこと」エ 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。

○評価の観点

読むこと (活用問題)

○解答類型

問題番号	解答類型	正答	反応率 (%)
3 二	(正答の条件) 次の条件を満たして解答している。 ①「エフ博士の作りたかったマクラは」に続けて、この物語のおもしろさを書いていること ②「ねむっている時だけ」という言葉を使って書いていること ③「…でした。」に続くように書いていること (正答例) ・(エフ博士の作りたかったマクラは、)ねむっているうちに英語の勉強ができるという予定でした。しかし、できあがったマクラは、ねむっている時だけしか英語が話せないもの(でした)。 ・(エフ博士の作りたかったマクラは、)ねむっているうちに勉強ができる予定でしたが、完成したマクラは、ねむっている時だけしか役に立たないもの(でした)。		
	1 条件①、②、③を全て満たしているもの	◎	60.6
	2 条件①、②は満たしているが、条件③は満たしていないもの		0.0
	3 条件①は満たしているが、条件②、③は満たしていないもの (例) ・(エフ博士の作りたかったマクラは、)ねむっているときに勉強ができるしかけで、ねむっているときには英語が話せるようになるけれど、起きていうときはききめがない。ねむっているときのねごとが英語になっている。(でした)。		3.0
	4 条件②、③は満たしているが、条件①は満たしていないもの (例) ・(エフ博士の作りたかったマクラは、)ねむっている時だけ勉強ができるマクラでしたが、実際は、勉強ができるのは英語だけ(でした)。		15.2
	5 条件②は満たしているが、条件①、③は満たしていないもの (例) ・(エフ博士の作りたかったマクラは、)ねむっている時だけいろいろな勉強ができた(でした)。		3.0
	6 条件①、③は満たしているが、条件②は満たしていないもの (例) ・(エフ博士の作りたかったマクラは、)ねむっていて勉強ができるはずだったが、実際はねごとで英語をいうだけ(でした)。		6.1
	9 上記以外の解答→ (例) ・(エフ博士の作りたかったマクラは、)ねむっていて英語が話せるマクラでした(でした)。 ・(エフ博士の作りたかったマクラは、)ねむっているうちに勉強ができて、英語でねごとをいうマクラだ(でした)。		9.1
	0 無解答		3.0

○考察

優れた叙述に着目して、自分の考えをまとめることができるかどうかを見る問題です。「おむね達成」の基準を 15.6 ポイント上回っています。課題となっていた無解答率は、3.0%で、[4月調査]より 10 ポイント以上改善が見られます。

正答の条件①の物語の面白さを捉えて書いているか、正答の条件②、③の求められた様式に合わせて書いているかの2つの点で、誤答の傾向を考察します。正答の条件①を満たせなかった誤答は、27.5%で最も多くなっています。正答の条件②、③の両方またはいずれかを満たせなかった誤答は、27.2%となっています。文章の内容を捉えることと、様式に合わせて書くことは、どちらも課題であると思われます。しかし、解答類型9の正答の条件①、②、③の全てを満たせなかった誤答は、[4月調査]より 4.9 ポイント改善が見られます。

② 解答を分析し、誤答傾向を考察した結果から

平成 27 年度佐賀県小・中学校学習状況調査 [4月調査] で課題となっていた「記述式の問題に無解答が多いこと」と「文章を読んで自分の考えを書くことや感想を述べること」については、自分の考えを記述しようとする関心・意欲面の伸びは見られました。しかし、求められた様式に合わせて書く力と文章を読んで自分の考えを書く力については、[4月調査]より改善は見られたものの、継続的な指導が必要だと思われます。

(2) 研究の成果と課題

本研究を振り返り、1年次の研究の【成果】と【課題】を明確にし、【2年次の研究に向けて】研究の方向性を考えていきたいと思えます。

【成果】

- 佐賀県小・中学校学習状況調査の解答を分析し、誤答の傾向を知ることで、課題の解決に向けてつきたい力が明確になり、より具体的な手立てを考え、授業改善策を立てることができました。
- 佐賀県小・中学校学習状況調査の結果を分析して考えた授業改善策と、国語科の授業づくりで大切なことを踏まえた授業改善策の2つの側面から授業づくりを考え、改善に努めることができました。
- 佐賀大学との連携を積極的に行うことができ、専門的な立場からの御助言の基、学校現場の抱える児童の課題について、より深く追究することができました。

【課題】

- ひとり学び・グループ学び・クラス学びを効果的に取り入れた学習計画の立て方については、さらに研究が必要になると考えられます。
- 児童が「自分には今、どんな力がついているのか」を知って、主体的に学習を作っていくための評価の在り方についてさらに研究が必要になると考えられます。

【2年次の研究に向けて】

○1年次の研究に引き続き、「読むこと」の領域における課題の解決に向けた研究を行いたいと考えます。本研究で提案している「単元で学ぶ」授業改善のポイントを基に、コンテンツ（教材の内容）の読み方を重要視するのではなく、コンピテンシー（その単元でつけるべき資質や能力）に重きを置いた更なる改善策を考える必要があると考えます。

単元で確実に力をつける授業改善に向け、研究を深めていきたいと考えます。

(3) 終わりに

本研究を進めるに当たり、検証授業会場校の武雄市立御船が丘小学校及び佐賀市立開成小学校の校長先生を初めとする関係者の皆様、御協力ありがとうございました。

また、佐賀大学文化教育学部教授達富洋二先生には、お忙しい中に、研究委員会に御参加いただき、研究の方向性を明らかにしていただきました。検証授業及び授業研究会にも参会くださり、本研究に対する多くの御助言をいただきました。心より感謝申し上げます。

関係する皆様の御協力で、「プロジェクト研究」授業改善（小学校国語）研究委員会の1年次の研究を進めることができました。研究に際し、多数の御支援を頂いたことに感謝の意を込め、お礼の言葉といたします。ありがとうございました。